

2020年10月26日

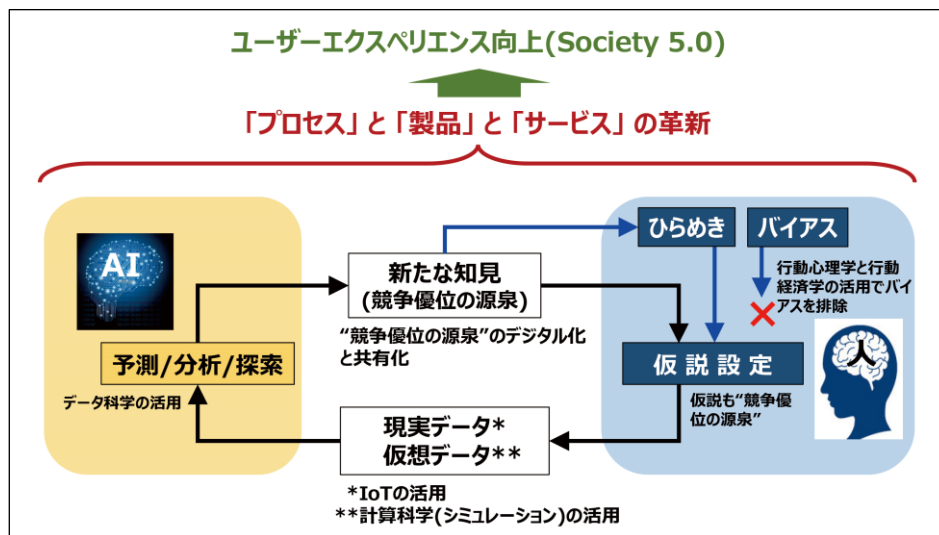
横浜ゴム、“人とAIとの協奏”によるAI利活用を構想

横浜ゴム（株）はこのたび、デジタル革新のためのAI利活用構想「HAICoLab[※]（ハイコラボ）」を策定しました。“人とAIとの協奏”によって、AIが苦手とするデータの存在しない領域（未踏領域）も含めた知見の探索を可能とし、プロセスや製品やサービスの革新を目指します。これにより、ユーザーエクスペリエンスの向上および内閣府が提唱するAIやIoTなどの革新技術により実現する新たな未来社会の姿「Society 5.0」の実現に貢献します。

※Humans and AI collaborate for digital innovation をもとにした造語で、人とAIとの共同研究所という意味合いも込めました

「HAICoLab」の特徴は人間特有のひらめきや発想力とAIが得意とする膨大なデータ処理能力との協奏によって新たな発見を促しデジタル革新を目指すこと。人が設定する仮説に沿ってデータ（IoTなどによる現実データと、シミュレーションなどによる仮想データ）を生成・収集し、AIにより予測・分析・探索することで、新たな知見の獲得が可能となります。仮説設定では、行動心理学や行動経済学を活用し新しい発見の障壁となる思い込みなどのバイアスを意識的に排除。さらに、得られた知見が記憶の断片となり、それらの結合により新しいアイデアの創出（ひらめき）が期待できます。このバイアス排除とひらめきによる仮説設定によって、未踏領域での知見の探索を目指します。

<「HAICoLab」の概念図>



<「HAICoLab」の活用により目指すこと>

- 構造と材料の設計開発プロセスに活用し、開発の効率化およびスピード向上を実現
- 生産プロセスの自動化や品質指標の安定化に活用し、製品品質の安定を実現
- ひらめきやバイアス排除によって、過去のデータから直接導き出せない新しい技術やソリューションを発見
- 暗黙知や技術的なやり取りをデジタル化し、共有化を実現

当社は「HAICoLab」の策定に先駆け、材料やタイヤの設計開発プロセスにおいてAI利活用による技術開発を進めており、2017年にマテリアルズ・インフォマティクスによるゴム材料開発技術、インフォマティクス技術を活用したタイヤ設計技術を発表しています。

このリリースに関するお問い合わせ先
 横浜ゴム（株）経営企画部 広報室 担当：池田
 TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570